

# 生産性と品質のメトリックス（指標）と活用（実践編）【オンラインライブ】

(4122183)

プロジェクトの見積り、生産性および品質の管理の実務を行う段階では、管理のためのデータ不足、予測や管理のための技術的な問題が発生します。本セミナーでは、統計的手法と実務で得られた経験に基づき、これらの問題に対処する方法を学びます。

開催日時	2022年12月7日(水) 13:00-17:00ライブ配信
カテゴリー	IS戦略実行マネジメント・プロジェクトマネジメント <b>専門スキル</b>
講師	梶山昌之 氏 (株式会社ワイハット 代表取締役 ITシステム可視化協議会 (MCIS) 国際化担当役員) 1981年日本アイ・ピー・エム株式会社の製品保証部門に配属。ATMなどの製品保証を担当。また、ソフトウェア信頼性の研究を行い習熟S字モデルを発表。 2015年株式会社ワイハットを設立。アナリティクスのコンサルティングおよび教育活動に取り組む。 2016年PM学会誌にて「データをビジネスに活用する実践アナリティクス」を連載開始。 2018年PM学会にて「人工知能(AI)と統計モデル研究会」設立。
参加費	J U A S 会員/ITC : 22,500円 一般 : 28,700円 (1名様あたり 消費税込み、テキスト込み) 【受講権利枚数1枚】
会場	オンライン配信 (指定会場はありません)
対象	情報システムの開発・保守を担当されるリーダー、プロマネの方 <受講前提条件> 生産性と品質のメトリックスと活用 (基礎編) を受講済の方、または同等の知識を保有する方 講義中、Excel (VBAマクロ使用) が使用できる方 ※ 特典として提供する「信頼度成長モデル」のツールはVBAマクロ使用しています <b>中級</b>
開催形式	講義・個人演習
定員	20名
取得ポイント	※ITC実践力ポイント対象のセミナーです。(2時間1ポイント)
特記	・お申込み後マイページより受講票をダウンロードして内容をご確認ください。 ・演習や質疑応答でマイクを利用することがあります。ご発言いただける環境にてご参加ください。
ITCA認定時間	4

## 主な内容

### ■受講形態

ライブ配信 (Zoom ミーティング) [【セミナーのオンライン受講について】](#)

### ■テキスト

開催7日前を目途に発送 (お申込時に送付先の入力をお願いします)

※開催7日前から開催前日までにお申込の場合、テキストの送付は開催後になることがあります。ご了承ください。

### ■開催日までの課題事項

特になし

生産性と品質のメトリックス (指標) と活用 (実践編)

～プロジェクトの見積りおよび品質管理の具体的手法を習得～

※本ページは「実践編」になります。

「基礎編」のお申込みはこちら>>>[生産性と品質のメトリックス \(指標\) と活用 \(基礎編\)](#)

プロジェクトの見積り、生産性および品質の管理の実務を行う段階では、管理のためのデータ不足、予測や管理のための技術的な問題が発生します。本セミナーでは、統計的手法と実務で得られた経験に基づき、これらの問題に対処する方法を学びます。

生産性と品質のメトリックス (指標) と活用 (基礎編) を受講された方、同等の知識をお持ちの方が対象となります。

◆主な研修内容:

## 1. 実績データが不足している場合の規模推定

実績データが不足している場合は？

FP物理的機能識別法

FP計測手順とFP物理的機能識別法

計測例～システム概要

計測例～機能の識別

計測例～物理FP値の算出と推定FP値

物理FP値とIFPUG計測値の関係

要求定義完了以前のFP総計値予測

## 2. 予測モデル構築手法

工数予測モデル～Capers Jonesの例～両対数散布図

平均への回帰と予測～シミュレーション

## 3. FPと工数の関係性分析手法

2要因カテゴリ別両対数散布図の活用

ハイパーキューブ

生産性要因とモデル化

アプリケーション別散布図と回帰分析

分布パターンの検討と回帰分析適用

## 4. ソフトウェア開発における管理図入門

ソフトウェア開発における管理図の活用

パン工場の重量を管理する

計量値の管理 ( $\bar{X}$ , R,  $\bar{X}$ , mR)

管理限界設定の考え方

何故  $\bar{X}$ mRか？何故  $2\sigma$ か？

コールセンターの未解決率管理

比率の管理 ( $p$  管理図)

ソフトウェア品質の管理

密度の管理 ( $u$  管理図)

## 5. 管理図と閾値設定例

設計書のレビュー

設計書のレビュー～ $\bar{X}$ 管理図

設計書のレビュー～ $U$ 管理図

## 6. 信頼度成長曲線を活用するための実践技術

S R G Mパラメータの推定

指数モデルの課題

指数モデルの分析

Rによる非線形回帰分析～指数モデル

パラメータ推定～60%進捗時

パラメータ推定～完了時

変数変換後に回帰分析を適用する方法